

行政評価の見直しについて

今後の行政評価は、効率的かつ効果的な運営を目指し、部が主体的に、事業の課題を浮き彫りにでき、改善につなげていけるよう事業評価中心にシフトしていくとともに、組織横断的なプロジェクトについて外部評価を実施し、その結果を翌年度予算に反映させるため、行政評価全体のスケジュールを見直しして実施する。また、PDCAサイクルのあり方も検討し、目標や指標の設定段階からの改善を進めていく。

1 行政評価の課題

- (1) 評価票が複雑で一見して課題が読み取りづらく、事業の改善に結びつきづらくなっている。
- (2) 組織単位の評価であることから、組織を横断するプロジェクトの全体的な評価が不十分である。
- (3) 外部評価については評価結果を翌年度予算に反映できていない。

2 見直しの考え方

- (1) 個々の事業の課題を浮き彫りにし、より事業の見直しにつなげていくため、事業評価中心にシフトしていく。
- (2) 部が主体的に、事業の課題を浮き彫りにし、改善に取り組むようにする。
- (3) 外部評価は、これまで対象としていなかった組織横断的なプロジェクトを評価するとともに、結果を翌年度予算に反映させるため、内部評価のスケジュールを短縮し外部評価の開始を早めるなどの見直しを行う。
- (4) 目標と成果による区政運営においては、行政評価の見直しだけではなく、新しい基本構想・基本計画の検討にあわせ、PDCAサイクル全体を見直す。

3 平成31年度の内部評価

(1) 評価票の主な記載内容

これまでの分野評価中心を改め、事業の課題を浮き彫りにすることに着目し、区政目標シートの施策シートにおける「主な事業」の成果を中心に評価内容を記載する。施策シートに「主な事業」の実績の記載欄を設ける一方で、分野及び部のシートは記載項目を精査した。

ア 施策シートは、「主な事業」の課題と改善の方向性が浮き彫りになるように、過去3年の事業実績及びコストにより費用対効果を含めた成果を分析するとともに、施策目標への有効性・貢献度を記述する。また、各事業の成果を踏まえた「今後の施

策の方向性」を「拡充」、「維持」、「改善・見直し」、「縮小」、「廃止」、「その他」の6区分で評価したうえで、評価理由を記述する。

イ 分野のシートは、施策評価（主な事業の成果分析等）を踏まえた全体的な見直し・改善の方向性を記述する。これまで記載項目としていた「目標達成度（要因分析）」、「事業・取組の有効性・適正性」、「事業・取組の効率性」などは項目から除いた。

ウ 部のシートは、分野評価、施策評価（主な事業の成果分析等）を踏まえた全体的な見直し・改善の方向性を記述する。これまで記載項目としていた「部の経営戦略に基づく取組の実施状況と成果」などは項目から除いた。

（2）実施方法

ア これまで行っていた部間相互評価、内部評価委員会は取りやめ、各部における自己評価において内部評価結果を決定する。

イ 評価票は、例年と同様、主要施策の成果（別冊）としてまとめ、第3回定例会の決算審査の参考資料とする。

4 平成31年度の外部評価

（1）例年と同様、内部評価結果の客観性を担保し、区民視点を行政評価に反映させるため、区民委員を含めた外部評価委員により評価を行う。

（2）これまでの部単位の評価ではなく、組織横断的なテーマを設定し、関連する事業の評価を行う。平成31年度は、「子育て」をテーマに、関連する事業の評価を行う。

（3）内部評価が自己評価のみで決定し、これまでより早く終了することから、外部評価のスケジュールも早め、令和2年度予算編成に外部評価結果を反映できるようにする。

5 今後の行政評価のあり方

（1）基本構想・基本計画の検討とあわせ、PDCAサイクル全体を見直し、目標や指標の設定、目標達成に向けて実施する事業の内容など、目的と手段の関係をより明確に説明できるよう整理するとともに、実施した事業の成果を適切に評価し改善につなげられる仕組みを再構築する。

（2）「中野区の新公会計改革基本方針」において、発生主義会計に基づく財務情報を行政評価に活用することを計画している。事業別、施設別といったセグメント別の財務書類を作成し、経常的なコストと資産形成に係るコストを分析して、よりコストを意識した行政評価を実施していく。

6 評価票様式

次のとおり。

【評価票（施策シート）】

0000		0000						
現状と課題（行政評価結果等を踏まえて）								
施策目標								
施策の指標								
指標／実績(28～30)・目標(30,31)				28年度	29年度	30年度	30目標	31目標
①								
②								
③								
指標の説明、設定理由、目標値の根拠								
①								
②								
③								
施策のコストと人員								
年度		28	29	30				
事業費（行政コスト）								
人件費								
施策の経費計		0千円	0千円	0千円				
		(0千円)	(0千円)	(0千円)				
施策の経費のうち、臨時的経費（臨時的経費が発生した理由）		説明：						
施策の常勤職員								
施策の短時間勤務職員								
区民一人当たりコスト（円）		0	0	0				

主な事業							
				主な事業の経費を行政コスト計算により算出（単位：千円）			
事業1				年度	28年度	29年度	30年度
〈事業実績〉補助指標及び補助データ等			28年度	29年度	30年度	事業費	
①							
②						人件費	
〈事業実績及びコストにより費用対効果を含めた成果分析、目標達成に向けた有効性〉							
				総 額	0	0	0
事業2				年度	28年度	29年度	30年度
〈事業実績〉補助指標及び補助データ等			28年度	29年度	30年度	事業費	
①							
②						人件費	
〈事業実績及びコストにより費用対効果を含めた成果分析、目標達成に向けた有効性〉							
				総 額	0	0	0
事業3				年度	28年度	29年度	30年度
〈事業実績〉補助指標及び補助データ等			28年度	29年度	30年度	事業費	
①							
②						人件費	
〈事業実績及びコストにより費用対効果を含めた成果分析、目標達成に向けた有効性〉							
				総 額	0	0	0

今後の施策の方向性	評価理由

【評価票（分野シート）】

平成30年度		00	〇〇分野					
分野目標								
分野の指標								
指標／実績(28～30)・目標(30,令和2)				28年度	29年度	30年度	30目標	令和2目標
①								
	ベンチマーク							
②								
	ベンチマーク							
③								
	ベンチマーク							
指標の説明、設定理由、目標値の根拠								
①								
②								
③								
分野指標の要因分析								
(内部要因)								
(外部要因)								
見直し・改善の方向性								

【評価票（部門シート）】

0 ○○部（30年度）						
部がめざすまちの将来像						
重点的に取り組んだ事項の成果						
部の指標						
指標／実績(28～30)・目標(30,令和2)		28年度	29年度	30年度	30目標	令和2目標
①						
	ベンチマーク					
②						
	ベンチマーク					
③						
	ベンチマーク					
指標の説明、設定理由、目標値の根拠						
①						
②						
③						
見直し・改善の方向性						